

えて、企業募金の要請を強化するほか、クレジットカードによる募金の受け付けを始め、旧松江市内の自治会・町内会に依頼してきた募金を旧八束郡内にも広げる。

ひな祭りイベントやすぎのひなめぐり」を題材にした写真コンテストの入賞作品23点が決まった。最優秀の安来市長賞には、米子市大崎の古安宣夫さんの作品「ひな流しの日」が選ばれ

募があった。古安さんの作品は、安来市広瀬町の河川敷で、笑顔でくつろぐ子どもを満開のサクラをバックに撮影。構図の良さや楽しい雰囲気伝わる表現力が評価された。

登録DMO地域せ目指

益田の一般社団法人を設立



益田市本町事務局本了山を指し、まちづくりについて語り合う山本了輔事務局長（左）と田原佳祐代表一益田市本町

益田市の住民有志6人が一般社団法人「しまねいわみ観光振興機構」を立ち上げた。市内の観光資源の魅力を磨くとともに、県西部のまちづくり団体や観光団体の仲介役として、広く情報発信を手掛ける計画。2021年までに、観光庁から地域連携DMO（観光地域づくり会社）の登録を受けることを目指す。

益田市の住民有志6人が一般社団法人「しまねいわみ観光振興機構」を立ち上げた。市内の観光資源の魅力を磨くとともに、県西部のまちづくり団体や観光団体の仲介役として、広く情報発信を手掛ける計画。2021年までに、観光庁から地域連携DMO（観光地域づくり会社）の登録を受けることを目指す。

DMOの本登録には2年間の実績が必要で、市内で空き家となっている施設を活用したワーキングスペースの整備や、国史跡・七尾城の再現を含めたシンボル化といった事業の構想を練っている。県西部の自治体と観光・まちづくり団体とも積極的に連携し、県西部全域の活性化を図る。

同機構の事務局長を務める山本了輔さん(44)は「県西部には、都会地に負けない魅力がたくさんある」と強調。田原代表は「行政や地域が抱える観光面の課題に、民間の法人としてスピード感を持って対応していきたい」と意気込んだ。

地域連携DMOは、複数の自治体と一体となって観光地域づくりを担う組織として登録を受けた後、活動実績を踏まえて本登録が承認される。同機構は6月に「候補法人」として申請する予定。(古瀬弘治)